

## 8. 愛知万博の会場構想

### 会場の原構造とその特質

- 愛知万博の会場予定地は、愛知東部丘陵に見られる典型的な谷地である。青少年公園地区は、この谷地の地形を巧みに活用してスポーツ交流施設と児童遊園施設、そして森林などの自然との交遊ゾーンとして利活用されている。海上地区は、荒廃地が植林され、将来は里山を生かしたフィールド拠点に予定されている。
- 青少年公園の4つの谷地から集まった水は、香流川に合流し、やがて庄内川水系となり、伊勢湾へと注ぐ。
- 水の豊かな青少年公園には、多くの種類の動物と植物が育ち、その自然の営みと共生しながら、愛知万博の開催と連動した、新しい都市公園像が求められている。

### 愛知万博会場の基本構成軸

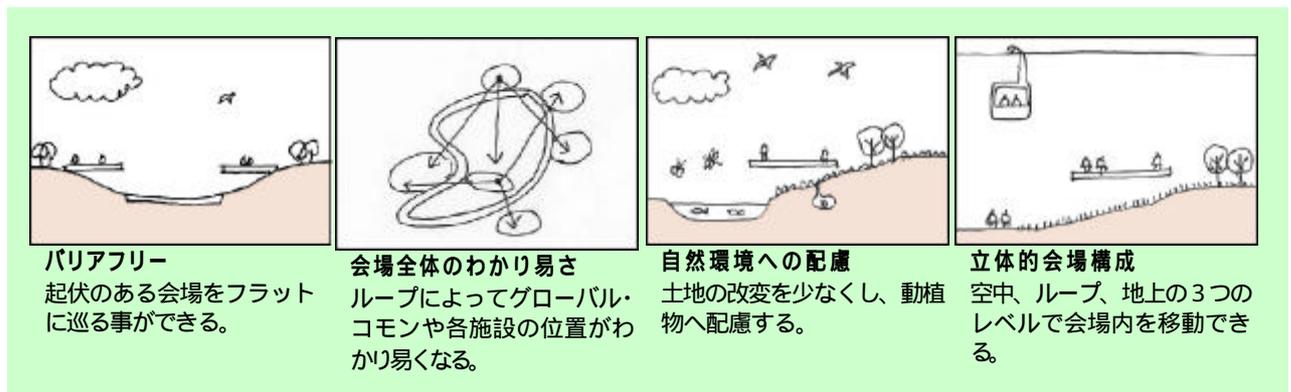
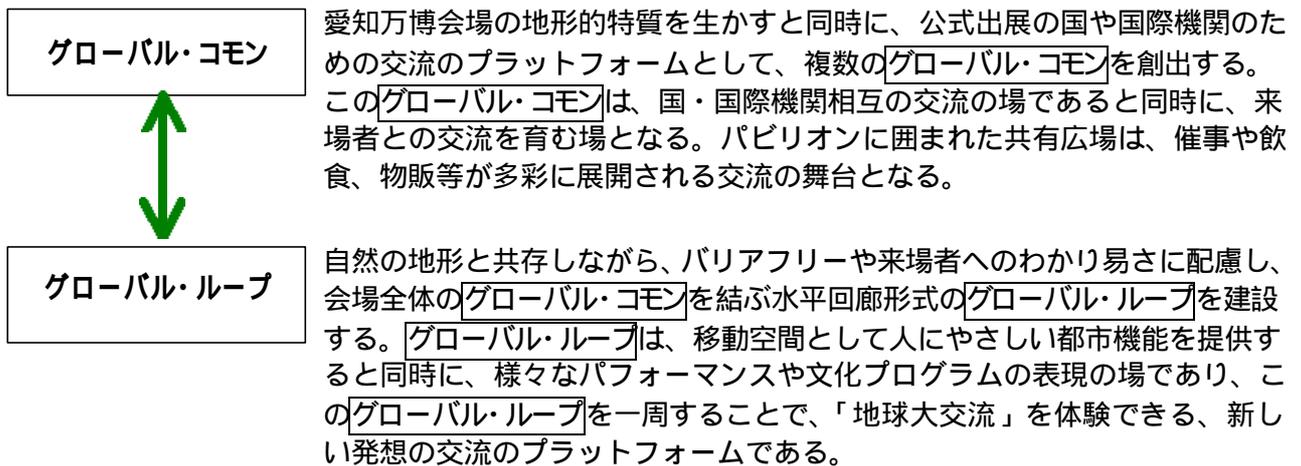
- 香流川に注ぐ谷地の入口と、海上地区を直線に結ぶと夏至の日の出の方向に一致する。青少年公園と海上地区を一体的な会場として構想する上で、この軸は重要な性格を有しており、愛知万博会場のテーマ軸として位置付ける。テーマ軸の西端には、西口ゲートを設ける。
- 青少年公園の正門入口は、青少年公園全体を遠望し、全エリアへのアクセス・ポイントとなっていることから、この公園の最南端の野球場台地と結ぶ線を、愛知万博会場の交流軸として位置付ける。また正門付近に北口ゲートを設ける。
- テーマ軸と交流軸の交点に位置するエリアは、アイスアリーナや温水プールのスポーツ交流施設や、こいの池や大芝生広場など、大量の人々の交流する機能空間をダイナミックに有していることから、このエリアを、愛知万博会場のセンター・エリアとして位置付ける。
- センター・エリアの北側から西側のエリアは、平地を積極的に活用したパビリオン・エリアとし、都市的な性格と役割を持たせる。東側のエリアは豊かな自然が残り、多様な動植物との共存が求められることから、森林体感エリアとして位置付ける。

### 多彩な会場動線の確保

- グローバル・ループは、会場のメイン動線として、歩道空間のほかに多彩な乗り物が配置される。
- また、グローバル・ループと複層的に地上レベルの回遊動線も設け、自然を体感しながら移動する楽しみを用意する。
- さらに、青少年公園地区内の南北の移動と、青少年公園地区と海上地区との移動のために空中ゴンドラを敷設し、会場の景観を楽しみながら高速に移動できる動線を確保する。

## 青少年公園地区の基本骨格

愛知万博の会場コンセプト「新たな地球共有地の創造」を実現する基本骨格として、2つの重要な交流のプラットフォームを提起する。



## 会場環境デザインの新たなアプローチ

愛知万博の会場は、テーマに則して、「新しい地球社会」「美しい地球社会」「変化する地球社会」を体感できる環境デザインを追求する。

緑と花のあふれる会場	テーマのシンボライズとしても、本来の地球のシンボルとしても、圧倒的な量と質を持った緑と花の新しい環境創造を展開する。
時間変化する会場	会場全体を1日24時間の変化の中で、また四季の移り変わりの美しさの中で変化する有機体としてデザインする。
天然素材を生かした会場	建築施設や修景物、外構素材などに天然素材（水・竹・土・木など）を積極的に用い、地球と人間の関わりが具体的に感じられるデザインとする。

会場地



会場構成図

